

## 令和3年度 第1回未来ビジョン会議 要点記録

- 1 開催日時 令和3年10月26日（火）午後7時から午後8時まで
- 2 開催場所 伊東市役所7階特別会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員4人  
市長、企画部長、事務局（企画課長、企画課課長補佐、企画課主査）

### 4 会議次第

- (1) 開会
- (2) 市長挨拶
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

### 5 会議概要

#### (1) 開会

企画課長から開会

#### (2) 市長挨拶

大変お疲れのところ、お集まりいただきましてありがとうございます。令和3年度1回目の未来ビジョン会議の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルスの影響から未来ビジョン会議が思うように開催できず、予定していただいた皆様には、大変ご迷惑をお掛けいたしました。

本来であれば、委員の任期は終了しておりましたが、意見交換をできなかった委員もおりましたことから、任期を延長していただき、今年度、未来ビジョン会議を開催させていただきました。

本日のテーマは、「ウィズコロナ又はアフターコロナで伊東市が取り組むべきこと等」です。現在、新規感染者数は減少傾向にありますが、この9月末まで伊東市においても、緊急事態宣言が発出され、長期間に及ぶ自粛生活や市内経済の冷え込み等、大変厳しい状況がまだまだ続いております。

この難局を乗り越えるため、今年度の本市の市政方針として、新しい伊東スタイルへの挑戦「～みんなで創る 新たな未来～」を掲げております。この方針を掲げた思いといたしましては、これまでの常識は通用しないというクリエイティブな視点に立ち、新たな価値や可能性を見出し、新たな時代に対応した持続可能かつ柔軟性が求められるため、この未来ビジョン会議委員の皆様を始め、全員参加で知恵や意見を出し合い、一丸となって取り組んでまいりたいと考えておりますので、本日も、忌憚のないご意見をお願いします。

#### (3) 意見交換

##### 【事務局】

それでは、事前意見（提案）・質問についてご説明します。

事前意見（提案）・質問一覧をご確認ください。

まず、本日のテーマですが、昨年度開催することができませんでした、未来ビジョン会議のテーマを今回も引継ぎ「ウィズコロナ又はアフターコロナで伊東市が取り組むべきこと等」としました。

昨年度、事前にいただいておりますご意見やご質問につきましても、フィードバックすることができませんでしたので、この会議にて紹介するとともに、現在の市の主な取組等を記載しております。

現状の取組として記載してある内容についてですが、このご意見やご質問も踏まえまして、意見交換を行っていただくことがメインとなりますので、議論の発展性を考え、詳細な取組内容まで記載していないこと、ご了承をお願いします。

それでは、事前意見（提案）・質問 一覧の記載内容について、ご説明します。

移住・定住についてです。1つ目のご意見として、コロナ禍の影響でリモートワークが急速に普及する中、都心との適度な距離感、多様な観光レジャーを併せ持つ伊東は移住先としては、最適と思われます。観光客の誘致と人口の増加を同時進行で進められたら素晴らしいことと思います。そのためには、心に刺さる仕掛けが必要です。その仕掛けについて皆さんと意見交換出来れば幸いです。というご意見をいただきました。

現状、市の取組といたしまして、令和3年3月に伊東市移住定住サイトをオープンし、移住検討者にとって有用な情報を発信しており、当該サイトにおいても豊富なレジャー体験や、都心との適度な距離感をPRしているところです。

また、令和3年度から、リモートワーク環境を整えるため、市内にコワーキングスペース等を整備する事業者に対し、整備費の一部を補助する「伊東市コワーキングスペース等整備事業補助金」を創設しました。

さらに、令和3年度に観光PRと移住促進PRを併せて発信する動画を作成予定で、観光から伊東市に興味を持っていただいた方に、移住という選択肢を提案する情報発信を企画しています。

続きまして、2つ目になります。伊東市ではコロナ移住政策は行っているのか？またそれに関してリモートワーク等の環境整備、企業誘致や広報活動等は行っているのか伺いたいです。とのご質問です。

先ほどの回答と重複してしまうところがございますが、令和元年度に創設された「伊東市移住就業支援事業補助金」において、令和3年度より補助要件を拡充し、移住元での仕事を続けながら伊東市に移住するテレワーカーについても、補助対象に加わったところです。

リモートワーク等の環境整備については、令和3年度から、リモートワーク環境を整えるため、市内にコワーキングスペース等を整備する事業者に対し、整備費の一部を補助する「伊東市コワーキングスペース等整備事業補助金」を創設いたしました。

企業誘致活動については、平成29年度に伊東市にサテライトオフィスを設置する事業者に対し、その整備費等の一部を補助する「伊東市サテライトオフィス等支援事業補助金」を創設したところであり、令和3年度においては、事業者と協働し、サテライトオフィス進出を検討している企業へPRを行う、サテライトオフィス誘致事業に取り組んでいます。

続きまして、裏面をご覧ください。

3つ目です。新型コロナ感染者や医療従事者に対する差別や偏見などの人権擁護に対しての取り組みを一時的ではなく、継続的に行うべき。特に学校などでの指導や講話を行い、新たな人権問題として扱うべき。そして、子供だけではなく大人にも周知の徹底が必要と思う。とのご意見をいただきました。

現在の市の取組としまして、伊東市メールマガジンにて差別や偏見等を行わないよう人権尊重・個人情報保護のご理解とご配慮のお願いを配信しています。また、本日の資料につけさせていただきましたが、ストップ誹謗中傷の啓発ポスターを作成し、市内出張所や市内スーパーに掲示しております。

県作成の啓発ポスターにつきましては、市内小・中学校、幼稚園・保育園に掲示依頼を行っております。簡単ではございますが、事務局からの説明は以上となります。

#### 【市長】

それでは、意見交換に入ります。事前にいただいた意見等について事務局から説明しました。トップバッターとして事前に意見をいただいたA委員をお願いします。

#### 【A委員】

よろしくをお願いします。弊社は公共交通機関です。コロナ禍の影響で、人の移動が制限されているということでもとても苦しい状況です。観光客を増やしていくことと地域の人口が減少の一途を辿っていると思いますが、こちらを増やすことで、両輪で地域経済を活性化していく必要があると思います。観光客・人口を増やすと言っても待っていても人は来ないし、増えないと思います。攻めの姿勢を、市や民間企業で取り組んでいかないといけないのかなと思います。

ユーチューブで伊東市の自然美を紹介している動画が2,000万回以上視聴されていると思います。その中で干物などを紹介していますが、これらを見て、伊東市に魅力を感じてくれる方は多いのではないかと感じています。しかし、7か月くらい前に配信されて、それ以降、新たな動画はストップしてしまっていると思います。継続的に情報発信していくことが必要だと思います。あの素晴らしい動画がありますので、継続的に発信し続ければ観光客は増えていくと思います。

移住・定住についても、自然美があって食べ物もおいしい場所は他にもたくさんありますので、その中でなぜ伊東かというところを重点的に発信していく必要があると思います。私は、長年千葉に住んでいましたが、水道水が飲めない地域があります。伊東は、都心からも適度な距離で、住環境も良く、水道水が飲めますし、海の透明度や空気の良さなど、喘息を持っているお子さんには住みやすい環境ではないかと思います。

また、個人的に思うことは、移住にはとても思い切りがいると思います。その地域に馴染めるかどうか不安があると思います。地域の世話役となる人を市が繋いであげること、移住に対するハードルが低くなることもあると思います。このような取組を行い、伊東が元気になれば良いなと思いました。

### 【市長】

経済的な面ですが、今年の8月の入込客数は一昨年と比べて半分以下でして、今年の8月と比べても悪い状況です。

観光をなんとか復活させないと、私たちの生活が成り立たないと痛感しております。

公共交通機関のバスやタクシーは密閉の空間になりますので、そういう意味では、マスクの着用などがマストになると思います。市として事業者に対して応援することをしっかりとやっていきたいです。

関係人口につきまして、統計上、観光交流客数では、伊東は熱海より圧倒的に多いです。観光客をコロナ以前の数以上にしていきたいと思っています。

他市町の成功事例や伊東市独自に売り込むアイデアがありましたら、今日でなくてもいつでも結構ですのでお知らせいただきたいと思います。

水道水が飲めるということも、いるとわからない良さというのが市外に出てみると分かるのかなと思います。

移住につきましては、移住者と繋がりを持っていただける方を地域の方に委嘱することも一つの案であると思います。

ユーチューブなどを活用したデジタルマーケティング事業に取り組んで3年目になります。時代の流行り廃りがありますが、現在、伊東の魚を売り込むために気まぐれクックという動画チャンネルに伊東の魚を使って、調理してもらい伊東の魚の宣伝をしてもらうよう調整をしています。そのユーチューバーが所属する会社に伊東出身者が4人います。今後撮影する予定です。今後ぜひ、色々な意見を聞かせていただきたいと思います。

続きまして、事前にご意見をいただいている、B委員よろしく申し上げます。

### 【B委員】

私は福祉業界の人間なので、コロナの影響を肌で感じていませんが、コロナ移住という流れがあると聞く中で、今では自宅で仕事ができるという環境が確立されているので、伊東は交通の便や自然環境も良く、仕事をしながらリフレッシュできる環境が整っているのが良いところだと思います。また、移住となると、移住場所が必要だと思いますが、街中を見ると空き店舗や空家が多くあるのを感じます。勤務先の区域でも空家が多くあり、若者が移住してくれば地域の活性化に繋がり、高齢者の見守りにも繋がってくると思いますので、お互いWin・Winの関係になると思います。

若者が魅力を感じて伊東に来る、東京から移住しても東京の仕事が伊東でできるということを発信していくことが重要だと思います。

また、キャンプブームですので、伊東もキャンプができる場所やポテンシャルがありますので、週末に趣味を楽しみながら仕事ができる環境があるということ、環境整備しながら情報発信していくことで、若者の意識が伊東に向いてくれれば良いなと思いました。

### 【市長】

伊豆高原に新しく観光協会を作りました。伊東観光協会と切り離して、ワーケーションやコワーキングスペースなどの事業を行い、このようなシステムによって何泊か過ごしていただく中で、移住に繋がっていくことを期待しています。

このコロナ禍で不動産業者によってかもしれませんが、かなり中古物件が売れてたようです。完全に移住はしていないかと思いますが、空き家につきましては少しでも解消に繋がっているかと思います。次のステップとして移住していただき、テレワークは今後も続いていくと思いますので、移住に繋がるような新しいアイデアがあれば教えてほしいです。

キャンプブームの中でもグランピングが好まれる傾向にあるようです。伊豆高原にあるグランピング施設の稼働率が高い傾向にあると聞いています。熱海と伊東の違いを比べられるのですが、伊東は熱海の面積の倍もありますし、熱海は観光スポットが密集してしまっていて、一泊二日型の観光地であると思います。伊東はまた違ったリゾートができると思いますので、伊東の長所を活かして、B委員の世代を取り込んでいきたいと考えています。本日はなくても、何かアイデアが出てきましたら、このような機会や気軽にメールでも構いませんので教えてください。

人権擁護についても事前にご意見をいただいておりますので、何か他にご意見はありますか。

### 【B委員】

私は、医療従事者へはもちろん福祉従事者に対しても差別があると感じています。

幸いにも、私が勤めている法人に対しては差別的な言葉はありませんが、市内で初めて感染者が出た際に、その感染者に対しての差別はとても酷いものでした。人口が少ない市ですので、仕方のないことなのかもしれませんが、今市内ではコロナ感染は0人が続いているので、また感染者が出た際に、どこの誰が感染したのかということで誹謗中傷する方が出てくると思うと、心苦しいです。

今日配付された資料をスーパーで見かけました。こういうのが必要だなと感じました。子どもは、学校で指導をすれば守ると思いますが、大人世代に対してどういう周知をして、ルールを守らせるのかということが難しいと感じています。

メールマガジンやステッカーによって周知を図っていくということですので、これからも続けていただきたいと思います。

### 【市長】

差別に関してですが、誹謗中傷から始まったフェイクニュースがあたかもリアルな情報のように周知されてしまいます。実は私も被害者でして、去年の11月ですが、市長がゴルフコンペを開催して、そこでみんな感染して、それでも市長は平然として公務をしているというフェイスニュースが流れました。私は、様々な場面で釈明したのですが、一回広がると、止めようがありませんでした。私は覚悟している立場ですが、最初に感染した一般の方も含め、そのご家族まで苦しい思いをしたと思いますので、そのよ

うなことがないように、ルールを守っていくことが重要であると思います。誹謗中傷をしない、させないために市や教育委員会が先頭に立って、取り組んでいくことを考えていますので、しっかりやってきたいと思います。

### 【C委員】

事業者によってコロナで明暗が別れたと思います。その差ってなんだろうと考えたときに、近くに一緒に頑張れる仲間や家族がいることが大きかったのではないかと思います。人との関わりというのが、昔は町内会などに世話役の人がいましたが、今は地域の関係が希薄になっています。移住したとしても、すぐに相談できる相手がなくて、困ったときに助け合えるような、昔の町内会に代わる、ツリー型のようなコミュニティがあれば、コロナ差別や移住の不安や事業者にしても売り上げが落ち込んだときに食べに行って助けてあげようという仲間がいたら違うと思いますし、市の考えなども市民に浸透しやすいと思います。

広報いとう、新聞、テレビですと見た人と見てない人との差ができてしましますが、口コミであればすぐ広がっていくので、ツリー型のコミュニティがあれば良いなと思いました。

### 【市長】

このコロナで売り上げが減少した事業者も多くいたと思います。去年は、子供たちも学校に行きたくても行けない状況も続きました。

このような状況下の中、事業者をなんとか支えたいということで、支援事業を行いました。まだまだ、苦しい状況が続いていると思います。確かに、そのような時に支えになったのは、仲間や家族であったと思います。

また、移住される方にとっては、地域の人間関係の構築に何年も掛かってしまいますし、関わりすぎるとお節介になってしまいますので、適度な距離感の方がなかなかいらっしやらないのかなと思います。移住事業は企画課が所管していますので、地域のコーディネーターなどを紹介するシステムがあると安心できるのかなと思いました。現在の事業として、移住希望者に市内を案内する移住体験ツアーを実施しておりますが、移住したてきた方に、地域の世話役のような方を紹介できれば良いなと思いました。

情報の取得に関しましては、新聞やメールマガジンなどで周知しても100%情報が行きわたることはありません。統計上、情報を一番周知できる媒体は、広報いとうとのことでしたので、広報いとうに正確な情報を載せるとともに、移住者には配布をしていきたいです。

去年、伊豆新聞に飲食店を紹介する記事があったと思います。100店舗ほど掲載しております。この記事をお蔵入りさせるのはもったいないので、近いうちに伊豆新聞に相談しようと考えていましたが、飲食店の情報をひとまとめにして、移住者に配布することや書店で販売することで多くの方に地元のお店を知ってもらい、使っていただくようにしたいと思っております。

## 【D委員】

周りの子育て世代の方に、意見をいただいたので、お伝えします。

1つは道路のことです。大池小の通学路の手摺が長い間壊れていて、夏休み期間中に直すと思っていましたが、9月末ぐらいになってようやく直りました。修理工事をしている日に、「朝、工事してるな」と思って、昼には工事が終わってしまいましたので、下準備はあると思いますが、やはり命に関わることもありますので、もう少し早く工事してほしいと思いました。

もう1つですが、若いお母さんや助産師さんから、伊東は自然な分娩ではなくて計画分娩で行うことがほとんどになってきていると聞きました。もし、計画分娩が中心というのであれば、移住者の方に対して、安心材料として、バックアップ体制などの情報提供をしていく必要があると思いました。

また、最近見たテレビ番組で、社会的処方について取り上げていました。コロナで人との繋がりが希薄になっており、高齢者の方を例にすると、話相手がいなくなって、認知機能が低下していき、介護が必要になってしまうなど、負の連鎖が続いて行ってしまうので、社会的環境を整えていくのがとても重要であるため、社会的処方を行う必要があるとのことでした。先日、天城の図書館に行った際に、おばあさんたちが8人くらい座ってみんなで話をしていました。そういう昔ながらの地域の繋がりが、伊東では希薄になってきているのかなと感じています。この繋がりがこぼれ落ちている人がいるのではないかと思います。

私は障害者の作業所に務めています。普段は、お土産用の箱などを製作しているのですが、このコロナで本当に仕事がなくなってしまって、利用者さんは雇用関係にないので、仕事がなくなってしまうと工賃を支払うことができないため大打撃を受けています。私たちのようなところでは、まったく仕事がなくなってしまうのだなと思いました。障害者の方達は、発信力が強くもなく、家族関係が良好でない方も少なくはないので、引きこもりになってしまったり、負のスパイラルに入ってしまうようです。社協の貸付も返す充てがないのに借りるしかないという方も多いですし、利用者さんが「底辺の生活だよ」と言っていたのも何度も聞いています。市役所に生活に困っているから相談しに行ったのに、生活保護など断られることも多く経験しているから、今度は相談をしなくなってしまう。外から見て、まずいなと思ったらもう取返しがつかないところまで来てしまっていることが多いので、コロナが落ち着いている今こそ、備えをする必要があると思いました。

## 【市長】

通学路につきましては、担当課に確認すると「こういう理由があったんです」という理由があると思います。しかし、早く直すことが、子どもを守ることや地域の方を守ることに繋がりますので、私からも担当課に伝えます。

分娩ですが、市民病院の医師が急に辞めてしまい、8月・9月の分娩予定の方に、急遽、順天堂で分娩を行ってもらうように調整をしていただきました。当然、市民病院を

指定管理している法人に対して、産婦人科を行うことはマストな条件であることを再三伝えました。その結果として、10月からは分娩の対応ができるようになりました。

東伊豆や熱海も分娩ができない状況ですので、伊東で分娩をする方が多いと聞いています。計画分娩しかできないことについては、担当課がないので詳しいことは分かりませんので、担当課へ伝えます。

(※後日、市民病院に確認し、計画分娩を促すような事実はないとのことでした)

生活困窮ということで、以前よりも国の制度で手厚い支援がありますので、これらの支援制度を利用し生活保護にならないように支援を行っている状況です。

障害のある方については、作業がなくなってきてしまっており、貸付制度で借りられる金額にも限界がありますので、支援制度を新しくしっかり見直すときだと思います。しかし、伊東市単独で支援することは難しいので、国や県に対して、要望や陳情をして現状を伝えていきたいと思います。コロナよって見出された課題について、しっかり対応していきたいと思います。

これで皆様一人一人と意見交換ができましたが、他に何かご意見がある委員はありますか。

それでは、本日の総括として、建設的な意見を伺えたと思えました。コロナを乗り越えて伊東の新しいスタイルを確立していくことが必要であると考えています。皆様も同じように感じていることがわかりましたので、今後のテーマについて、観光、産業、教育などの事業の形が出来上がってきますので、それぞれの事業についてまた皆様からご意見をいただき、参考にしたいと考えていますのでよろしくお願いします。

それでは、事務局から、お知らせ事項があります。

#### 【事務局】

※次年度以降の未来ビジョン会議の委員の選出について

#### 【市長】

それでは最後となりますが、今年度は1回のみ参加となり、昨年度から、引き続きご参加いただきありがとうございました。

皆様に参加いただきます、未来ビジョン会議は一区切りとなりますが、今後もボトムアップによる市政運営は邁進してまいりますので、会議の中でも申し上げましたが、何かご意見等がございましたら、なんなりと申し伝えてくださいますようお願いいたします。

それでは、長時間ありがとうございました。

以 上